

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2015年3月1日 138号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パラグアイ川とレダ基地。右が本流、左は支流。中央に滑走路。岬と手前とに養殖池。（現在の水位と同レベルのときに撮影）

洪水の危機を回避するため

昨年の異常気象によるパラグアイ川水位の上昇は、深刻な洪水の危機を迎えていました。レダ基地ではゲストハウジングが床上浸水し、公館の間近まで水が迫りましたが、何とか乗り切ることができました。今後も想定される洪水への対策として、堤防（土手）造りを訴えましたところ、多くの皆様の篤いご支援を賜りました。心から感謝致します。これを機にしつかり堤防を造つて行くべく準備しています。十月から二月位までは雨季です。この期間は頻繁に大雨が降るため、未舗装の道路はしばしば通行止めになります。一月末における川の水位は、幸いなことに雨季に入つてからの降雨量が比較的に少なかつたこと也有つて、ピーク時からの下げ幅が例年並みの5メートルに至りました。

堤防造成工事は、業者と綿密に打ち合わせて実行して、最少限度の安全対策は果たして行く予定です。工期状況に關しては、業者との交渉が完了して決まり次第、順次皆様にご案内申し上げます。現時点では、四月か五月頃を見込んでおります。

また、公道から私たちの基地に、堤防工事の為の作業チームとして、建設業者がトラクター・ブルドーザー等の重機を何台も運んで来るのにあたつて、四十Kmにわたり隣接する牧場の私道を使わせてもらう予定でした。（まだレダ側の道路は作つていない。）しかし重機が走行すると、余りにも道路が傷むことが予想されるため、現在道路の使用交渉が難しくなっています。場合によつては、船で運んで来なければならぬことも覚悟しておかなければなりません。いずれにしても日本では考えられない環境圏での作業工事のため、根気よく多くの困難を乗り越えて行く必要があります。今後とも皆様のご理解とご協力を厚くお願い申し上げ、状況報告とします。

レダで活動した若者たちに質問しました

昨年八月から本年二月まで、中期ボランティアとしてレダ基地で活動した二人の若い女性が、元気に帰国しました。以下、そ

のインタビューです
①レダでの担当業務、②レダで苦心したこと、
③日本滞在中にしたいこと、④レダ基地での生
活、業務などを通して感じたこと、⑤日本の皆
様へひと言どうぞ。

★亀岡誉子さん

① 煙での農業・タロイモの研究。② 雨の後蚊が大発生した煙での作業です。何十四という蚊が襲来し、服を二枚着っていても刺してくるので煙にいることすら嫌でした。蚊に刺されながらも耕して種を蒔く中で、この環境下で何年も開拓を続けることが如何に苦労かと痛感しました。

③ 休学していった大学に戻つて四回生をやります。できれば卒論でレダのような環境下での農業について調査できたらいいなと思つています。将来は農業か国際支援に関わることをしたいです。

タロイモ栽培や土壤改良などを研究した亀岡さん

④私は本当に愛され、導かれていました。たくさん試練を与えられましたが、それを越えるために人を通して言葉を与えて下さったり、美しい自然を通して励まされました。⑤技術のある方はぜひレダに行つて開拓をされたらいいと思います。環境は厳しいです。環境は厳しいことがあります

連載インダビュー (第5回)

Amo Leda!



パブロ・チャベス

Pablo Chavez (43) 3児の父
(7歳男、6歳男、1歳女) 奥さんと
子供は現在ピラー (パラグアイ最
南端の町) 近郊に住む。メカニッ
ク技師、電気技師の資格を持ち、
レダに無くてはならない大黒柱と
して現在活躍中。

ましたが、都合でエステ市に引越し、そこも都合が悪くなり、アスンシオン市に引越し、そして現在はアスンシオンから350km離れた自分の実家があるピラー市の近郊に落ち着いたのですが、とても遠く、船だと3日はかかります。親戚を含む多くの人から、なぜ家族の近くで面倒を見ないのかと責められました。でも自分にとって幸いだったのは妻が自分を支えてくれたことです。

Q. そんな大変な状況のなかで、レダで仕事をしていてどのように感じていますか？

A. 非常に満足しています。何故なら、ここにいることによって自分が、とても守られていることを感じるからです。また、インディヘナの人々と仕事をし、この辺境の地の村の人々の為に尽くせるのもやりがいがあります。そして、人を感銘させる活動の一端を担い、自分がしていることに誇りを持てることが一番すばらしいことだと思います。

★谷本情花さん

★谷本情花さん

① シニアの小橋さんがレダ基地で育てている豚や牛でチョリソーや、川で獲れたピラニアを使つてかまぼこや魚肉ソーセージを作つておられるので、そのお手伝いと、レダで働いておるインディヘナの女性たちに日本食を教えていました。②インディヘナ（先住民）の女性たちに日本食を教えるのは、言葉も通じないし、さまざまに大変で



レダで働くインディヘナの女性たちと谷本さん

したが、一緒に料理を作っていく中で、心情が近くなり、彼女たちからパラグアイ料理を教えてもらつたり、帰る時はお土産をもらつたりと、すごく良い関係を築くことが出来ました。

③まず、レダ基地での活動を通して感じたことをたくさん的人に伝えたいです。

④レダは、自然が本当に美しくて、朝日や夕日、星空、たくさんの動物たち、珍しい魚や植物などに毎日感動しましたし、自然の中で自分自身をすごく見つめ直すことができました。そして、先輩の先生方の姿を通して、この地で15年も精誠を尽くされたことの偉大さを実感出来ました。私も天と地に信頼される者になつていきたいと思いました。⑤レダは、自然環境も素晴らしい、多くの方々が精誠を尽くされた地ですが、まだまだ困難な事も多いので、一人でも多くの方がレダに関心を持つていただけたらと思います。



★カイマン（ジャカレ）

体は大きいが、性質は比較的おとなしく、人が近づくと急いで水中に潜つてしまふ。その時立てる轟音は、ドシャン、バシャン、と遠方にまで響き渡る。彼らに接近したかつたら、なるべくゆつくり、静かにアプローチするのが良い。ワニが身の危険を感じない限り、まず人を襲うことはない。石などぶつけないで欲しい。川岸で釣りをしているとカaimanが近づいてくることがしばしばある。水中をいつの間にか忍者のように静かに接近し、近くに来ると目だけを出してこちらを見ている。まさか釣れた魚を横取りする気はないだろうが、岸に雑魚を投げてやると、敏捷な動きで走り出てくわえる。陸上でも足はかなり速い。ワニに近づかなければ、釣竿を水平にして持つと



パンタナールを代表する爬虫類は、文句なしにカイマンというワニだ。地元では、「ジャカレ」と呼ぶ。良く見かけるものは、体長二メートル前後の個体だが、中には三メートルを越す巨漢もいる。

こういう連中が群れを成して川や湖沼のほとりで甲羅干しをしている光景に初めて出くわす時、都會人の中には眠っていた野生が一挙に目覚める。そして興奮し、陶酔に至るかも

パンタナールの魚類の王者は、ドライブだ。誰が決めたというわけでもないが、その名声は不動のものと言つてよい。金色に輝く美しい魚体。凶暴なピラニアをも圧倒する勇猛ぶり。釣り師と繰り広げる壮烈な闘い。そして魚肉の美味。どれをとってもファーストクラスの魚として、評価は定まつてゐる。

ドライブは、パラグアイ水系、パラナ水系な



(ワニ目) アリゲーター科 パラグアイカイマン

★ドーラード（または、ドーラド）

のワニにも知られてしまう。ワオ一、ともグアオ一ともた濁声で、体を弓なりにしていた。あたかも天に向かつて祈るような威厳さえ感じることがある。カイマンこそパンタナール水軍の王者だろう。成熟したカイマンの天敵は人間だけだ。

どの本流と支流に棲む。繁殖期に近づいた雄と雌は、生まれ故郷の静かな流れに帰り、稚魚の餌となるピラプタンガなどと共に産卵する。孵化した稚魚は、同じ頃孵化するピラプタンガなどの稚魚を食べことになる。そして成長しながら大河に戻り、生涯を肉食で生きる、フィッシュユイーテーである。

ドライドの成魚は、尾びれの下方が食いちぎられていることが多い。パンタナールには他にもピラニアを筆頭に肉食魚が数多く棲む。王者ドライドといえども、危険な青少年時代を、水中のジヤングルの掟の中で勝ち抜いてきた個体は、選ばれた者と言える。釣り師のハリに掛かっても、おいそれと捕まつたりはしない。ローリングとジヤンプでハリを外そうとする。ドライドの口は硬く、ハリが口に引っかかっているだけなら、釣り糸を弛ませ、首を振つてハリを外してしまう。逃がしたドライドは、大きく、美しい。その悔しさを胸に、釣り師はいつそうの鬪志をかき立てられる。



繁殖期に近づいた雄と
かな流れに帰り、稚魚の
孵化するピラプタンガな
になる。そして成長しな
を肉食で生きる、フィッ
尾びれの下方が食いちぎ
パンタナールには他に
良魚が数多く棲む。王者
危険な青少年時代を、水
中で勝ち抜いてきた個体
釣り師のハリに掛かつ
たりはしない。ローリ
を外そうとする。ドレー
日に引つかかっているだ
せ、首を振つてハリを外
トライドは、大きく、美
に、釣り師はいつそうの
如まつた禁漁期から、五
年間、ドライドは捕獲
禁止となつた。減少し
た個体数を回復するた
めだ。店頭を賑わして
いたドライドは、一旦
市場から姿を消した。
近年、川幅いつぱいも
あろうかと言う巨大な
網が使われるようになつ
たが、いかに闘魂豊か
なドライドといえども、
貪欲な商人と漁師の大
網にはかなわないのだ。
(カラシン目 カラシン科
ドライド、またはドライド)

今年は日本での活動も活発に推進します。

日本の各地で南北米福地開発協会の支部が結成されています。柴沼事務局長が全国を巡回、支部結成の意義と今後の方向性について説明会を行いました。過去、十五年は南米、パラグアイ、レバダの地の開拓の支援とレダ近郊のインディヘナ村への教育支援を行ってきました。昨年の五月に日本において当協会が一般社団法人となり、パラグアイにおいて実践してきた奉仕と自然保護活動を日本の各地域単位で行うことになりました。会員の皆様は支部に所属し、地域での集会や活動に積極的に参加してください。

南北米福地開発協会 日本国内活動

国際協力青年奉仕隊の派遣



環境改善モデル地域への訪問



エコツアーアの企画



環境問題セミナー



青年に対する環境講演会



植樹活動



第六回一日特別研修会風景(2014年11月9日)



ポット苗作りの説明を熱心に聴く参加者

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.jp

ホームページ: <http://www.asd-nsa.jp>

第七回パンタナール一日特別研修会(案内)

お待たせいたしました。本年初の一日特別研修会を、左記の通り開催いたします。会場が変わりましたので、この点にご留意ください。

日時: 2015年3月28日(土)

十時三十分～十七時三十分(十時より受付)
会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

(東京都渋谷区代々木神園町三二)

小田急線参宮橋駅から徒歩七分

参加費: 2000円(昼食を含む) 当日受付にてお支払いください。

プログラム(予定)

★提唱者の思想と私たちーレダ開拓史(飯野)
★ここまで進んだ地球環境問題(高津)

★レダプロジェクトにおける理想郷建設(柴沼)
参加申込は、①名前・フリガナ②年齢③性別
④住所⑤電話番号⑥メール⑦紹介者を明記の上、
FAX: 044-829-2820、または
メール: office@asd-nsa.jp へお願いします。

会員種別

♠会員一口1000円/月 ※口数は申込者が申告

♠特別会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

♠法人会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名: シャ)南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。
また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.docx>